

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 13 日現在

機関番号：34310
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2015～2017
 課題番号：15K02394
 研究課題名(和文) 雑誌・新聞に見るベル・エポック期「エスプリ・ヌーヴォー」の諸相に関する総合的研究

 研究課題名(英文) A comprehensive study on various aspects of "L'Esprit Nouveau" in the Belle & Eacute;poque period seen in magazines and newspapers

 研究代表者
 伊勢 晃 (ISE, AKIRA)

 同志社大学・グローバル・コミュニケーション学部・教授

 研究者番号：00379059
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、ベル・エポック期のフランスにおける「エスプリ・ヌーヴォー」の諸相を、当時の新聞や雑誌の検証を通じて、実証的に明らかにすることを目標とし、研究を推進した。その結果、当時の新聞や雑誌に関する書誌情報のデータベース構築をほぼ完成し、フランスでの調査と資料収集によって、基礎的資料の整備を終えた。また、フランスの研究者との協力関係を強固なものにすることができた。今後は、新興芸術である映画の変容と発展を視野に入れ、より広範な調査を行いたい。

研究成果の概要(英文)：The objective of this research is to clarify the aspects of "L'Esprit Nouveau" in France at the Belle Epoque through verification of newspapers and magazines at that time. As a result, we almost completed the database construction of bibliographic information on newspapers and magazines, finished preparing basic materials, and were able to strengthen our cooperative relationship with French researchers. From now on, with a view to transformation and development of cinema of the time, we would like to conduct a broader survey.

研究分野：アポリネールと20世紀前衛芸術研究

キーワード：ベル・エポック アポリネール 芸術思潮 エスプリ・ヌーヴォー

1. 研究開始当初の背景

本研究はベル・エポック期の文芸思潮に関する研究を、同時代の芸術思潮にまで対象を拡大し、19世紀末から20世紀初頭のフランスにおける「エスプリ・ヌーヴォー」の諸相を実証的に解明することを目的とするものである。

研究代表者の伊勢は、国内だけではなくフランスの研究者とも連携し、科学研究費補助金(基盤研究C)「アポリネールの文学批評から見たベル・エポック期におけるフランス・モダニズムの諸相」(課題番号21520325、研究代表者伊勢)および「20世紀初頭のフランス文芸思潮におけるモダニズムの形成と展開に関する実証的研究」(課題番号24520374、研究代表者伊勢)によって、アポリネールを中心軸にしながら、ベル・エポック期における主として文学批評に関する基礎研究を行い、査読論文および国内外から研究者を招聘しシンポジウムを行うことで、その成果を公表してきた。これら二つの研究課題を遂行する過程で、前衛芸術の運動原理を立体的に解明するためには、文学だけではなく美術や映画、舞踏など芸術全般を視野をおいた、より広範で組織的、精密な調査が不可欠であるという認識を持つに至った。

本研究では、上記の科学研究費補助金による研究を継承、発展させ、諸芸術の動向がもっとも明確に現出している雑誌や新聞の活動実態を精査することにより、ベル・エポック期における「エスプリ・ヌーヴォー」の諸相に新しい視点を獲得するための基礎研究を、日仏の研究者チームで行うことにした。

2. 研究の目的

19世紀末から20世紀初頭までの期間は、数々の「主義」が生まれ、新しい芸術が抽象的に理論化される過程において、文学と諸芸術は融合の度合いを深め、その垣根を超越したところでこれまでにない文芸・芸術思潮が構築されていく。アポリネールのいう「エスプリ・ヌーヴォー」は、象徴主義とシュルレアリスムの二大運動を結ぶ時代の精神を明確に表明したものであり、彼自身も若い無名の芸術家や群小詩人・作家などと交流し、新しい芸術運動の組織化を試みている。当時、彼らの作品発表や言論の場は主に雑誌や新聞であり、大小さまざまな雑誌や新聞が無数に創刊されては消滅している。それは、様々な文学者・芸術家の交流と対立、新しい文学・芸術潮流の生成過程と展開を如実に反映しており、その学術的検証は不可欠である。特に、当時、前衛芸術の最前線となっていた「小雑誌」(petit revue)に関する研究を推進しなければならない。

本研究の目的は、新しい文学・芸術風土を創出しながらも現在では忘却されているマイナーな雑誌や小新聞、群小作家や芸術家を視野に入れながら、ベル・エポック期のフランスにおける「エスプリ・ヌーヴォー」の諸相

を実証的に明らかにすることである。当時の文学、芸術誌や新聞の活動実態(それらが創刊されるに至る過程や当時のアカデミズムと前衛文学・芸術グループとの関係、活動の展開と内容の変容など)を詳細に分析し、当時の社会・文化事象や諸外国の新しい文学・芸術運動の影響も考慮しながら、前衛文学、芸術運動の生成、組織化の過程を明確にすることを目的としている。

本研究により、19世紀末から20世紀初頭までの文学・芸術思潮や社会・文化事象に関する従来の研究を補う新しい視点を獲得することになると考えている。

3. 研究の方法

ベル・エポック期のフランスにおける「エスプリ・ヌーヴォー」の諸相を、雑誌・新聞の分析から実証的に解明するという目的を完遂するために、日仏の研究者からなるチームを組織し、資料の収集を容易にし、最新の研究動向を把握しながら研究を進めた。3年間の研究期間を1年ごとに短期的計画を立て、それぞれの期間で、以下のような研究方法をとることとした。

(1) 研究環境の整備：フランスのベル・エポック期における新聞、雑誌の資料調査を行い、書誌情報のデータベースを作成する。

(2) フランスのベル・エポック期における文壇の状況調査：当時の雑誌や新聞、書籍などのうち関係するものを購入、複写、マイクロフィルムなどの形で入手する。

(3) 先行研究調査：先行研究の徹底的な比較検討とデータの整備を行う。

(4) フランス本国の研究者との連携：フランス人研究者研究の進捗状況を報告するとともに、研究の方向性について意見交換を行う。また、国際学会での研究発表を行い、研究論文を執筆する。

このような活動を通して、ベル・エポック期の新聞、雑誌に関する基礎的調査を終えることを到達目標とする。

4. 研究成果

上述したように、本研究はベル・エポック期における「エスプリ・ヌーヴォー」の諸相に新しい視点を獲得するために、当時の新聞、雑誌に焦点をあて、(1)発表媒体としての雑誌、新聞の種類や性質、執筆者の情報などを含む書誌情報のデータベースを作成し、研究の基礎的基盤を構築すること、(2)研究資料を収集すること、(3)フランスとの共同研究体制を確立すること、(4)研究成果を国際学会での発表や論文で公表すること、にある。

平成27、28年度は基礎的研究の段階として位置づけ、先行研究の徹底的な比較検討とデータの整備を行った。また、雑誌・新聞に関する資料調査、データ処理を行った。フランス国立図書館で必要な資料調査を集中的に行うとともに、パリ第3大学名誉教授ダニエル・デルブレイユ氏、パリ第10大学教授

ロランス・カンパ氏やパリ第 12 大学准教授
キャロル・オルエ氏らと研究の方向性につ
いての議論し、国際学会での発表および論文執
筆について意見交換を行った。

平成 29 年度は、収集した資料の分析と考察
を行い、校注の作成および論文執筆に取りか
かった。さらに、スリジ・ラ・サルでの国際
コロックの場において、著名な海外研究者と
本研究課題について直接議論を行い、フラン
スでの支援体制を確立するとともに、彼らの
協力によって、フランスの研究機関、図書館
や個人コレクションなども利用することが
できる環境を構築することができた。

本研究を通じて、基礎的資料を作成し、当
時のアカデミズムと前衛文学・美術グループ
との関係、活動の展開と内容の変容などを解
明してきたが、その過程で、新興芸術である
映画の変容と発展も「様々な文学者・芸術家
の交流と対立」、「新しい文学・芸術潮流の生
成過程と展開」を如実に反映しており、両者
の影響関係に関する学術的検証が不可欠で
あるという認識を得た。今後は、平成 30 年
度科学研究費補助金「ベル・エポック期にお
ける文学・美術思潮からみた映画の位相と影
響に関する実証的研究」（基盤研究 C, 課題番
号：18K00493, 研究代表者：伊勢晃）に研
究を引き継ぎ、ベル・エポック期に構築され
た映画産業と文学・芸術との関係のあり方が、
映画の美学、美学的探求の根本に関わってい
るのではないかという点について、海外の第
一線の研究者と緊密な連携体制をとりなが
ら検討するとともに、日本の芸術文化全般へ
の影響も含めたフランス前衛芸術の新たな
局面を明確にしたいと考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に
は下線)

〔雑誌論文〕(計 3 件)

佐藤文朗, アポリネール作品における惨
殺される呪術王, 紀要(京都嵯峨芸術大
学), 査読無, 42, 2017, 13-17

ISE, Akira, Apollinaire au Japon -
Autour de Daigaku Horiguchi, *Europe*,
査読有, 1043, 2016, 227-233

伊勢 晃, アポリネールの日本への受容
と堀口大学, コミュニカーレ, 査読有,
5, 2016, 51-58

〔学会発表〕(計 1 件)

ISE, Akira, Réception de Jacques
Prévert au pays du Soleil Levant.
Autour du théâtre et du film
d'animation japonais, Colloque
international de Jacques Prévert,
détonations poétiques,
Cerisy-La-Salle, France, 2017

〔図書〕(計 4 件)

伊藤洋司, 読書人, 映画時評集成
2004-2016, 2017, 526

伊藤洋司, 得地直美他, フィルムアート
社, 映画を撮った 35 の言葉たち, 2017,
160

伊藤洋司, 入江哲朗他, フィルムアート
社, 映画監督、北野武。2017, 406

伊藤洋司, 宮本悟他, 中央大学出版部,
フランス 経済・社会・文化の実相 2016,
300

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等
該当無し

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊勢 晃 (ISE, Akira)
同志社大学・グローバル・コミュニケーシ
ョン学部・教授
研究者番号: 00379059

(2) 研究分担者

佐藤 文郎 (SATO, Fumiro)
嵯峨美術大学・芸術学部・教授
研究者番号: 30434773

伊藤 洋司 (ITO, Yoji)
中央大学・経済学部・教授
研究者番号: 10384728

森田 いく子 (MORITA, Ikuko)
嵯峨美術大学・芸術学部・講師
研究者番号：50460697